

国・私立中学入試模擬試験

2017年度 8月号

●小学5年●

国語

所要時間50分

◇試験の前に必ず読みましょう◇

- 1 この問題用紙は、先生の「始め」のあいずがあるまで開いてはいけません。
- 2 教室コード番号・受験者コード番号・氏名は、とうあん答案用紙の所定のらんにはっきりと記入しなさい。(コード番号は算用数字で記入すること。)
- 3 答えはすべて答案用紙の決められたらんにはっきりと書きなさい。答えを書き直す場合には、かんぜん消しゴムで完全に消してから書きなさい。
- 4 しつもん質問のある場合には、だまって手をあげて先生にたずねなさい。
- 5 先生の「やめ」のあいずがあったら、しじ指示にしたがって答案用紙を提出しなさい。

〔国語の注意事項〕

- ◆ とく特に指示のない場合は、くとうてん句読点や「ふごう」などの符号も一字に数えること。
- ◆ 文字数の指定のある場合は、一字につき一マス使うこと。
- ◆ いじょう二つ以上の記号を答える場合は、「すべて」選ぶ場合を除き、一つの解答らんに一つの記号を書き入れること。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一年の満男^{みつお}だって、学校になれたら、ミチエに声もかけないし、寄^よってさえこなくなった。なのに、次男^{つぎお}が教室にまで来た。

「ねえちゃん、筆箱、ねぐなった」

「忘れ^{わす}れたんじゃねえのが」

「ちが、忘れてなんてきね」

次男^{つぎお}がミチエをじっと見すえて、勢^{いきほ}いよく首をふった。いつもだらしなくしている次男^{つぎお}のことだ。忘れてきたと考^{かんが}えてしま^まう。でも、いつ買^かってもらえるか分からない文房具^{ぶんぼうぐ}は大事^{だいじ}にしているはずだ。

「ほんじゃ、どうしたんだ」

ミチエ^①は次男^{つぎお}の真剣^{しんけん}さに、どきつとさせられた。

「だれかが、隠^{かく}したんだ」

次男^{つぎお}は目のふちに涙^{なみだ}をためていた。その目でミチエまでにらみつけている。

② だれかに隠^{かく}されたとしたら、ミチエにはどうすることもできない。二年一組の教室に行^いって、みんなに聞^きくことなんてできないと思^{おも}う。頼^{たよ}りになるのは、次男^{つぎお}の担任^{たんぱん}の篠原先生^{しのはら}だけだ。

「先生に言ったのか」

「ちやんと言ったあ。先生、忘^{わす}れたんじゃないって、言^いって笑^{わら}ってたあ」

次男^{つぎお}は先生^{せんせい}への怒^{いか}りを、ミチエにぶつけるみたいにな^なった。涙^{なみだ}目を精^{せい}いっぱい開^{ひら}いている。ここで泣^なかれたら、とミチエは

A 人目^{ひとめ}を気にした。

篠原先生^{しのはら}は、去年まで校長先生^{かちょうせんせい}だった篠原先生^{しのはら}の娘^{むすめ}で、お兄^{あに}さんは中学校^{ちゅうがっこう}の先生^{せんせい}だ。村^{むら}の人^{ひと}たちは、りっぱな先生^{せんせい}一家^{いっか}の娘^{むすめ}さんと言^いっているけど、ミチエには氣^きどった冷^{ひや}たさしか感じ^{かんじ}られない先生^{せんせい}だった。

「よし、わたしも、もう一回……」

と、氣^き負^おって言^いって、次男^{つぎお}の手^てをつかんだけど、すぐ氣^き持^{もち}ちがな^なえてしま^まった。④ 次男^{つぎお}も手^てをふりきった。顔^{かほ}を横^{よこ}にふっている。涙^{なみだ}の筋^{すじ}が耳^{みみ}のほうに流^{なが}れてい^いった。

「いい、鉛筆^{えんぴつ}と消^けしゴム貸^かしてくれば」

「だって……」

と、ねえちゃんぶったけど、やはりあとが続^{つづ}かなか^かった。

「……うん」

次男^{つぎお}が篠原先生^{しのはら}のことはいちばんよく分^わかっているのかもしれない。

「鉛筆^{えんぴつ}と消^けしゴム」

次男^{つぎお}が長袖^{ながそで}シャツの袖^{そで}で、涙^{なみだ}と鼻^{はな}をふいた。いつもだったらしかるところだが、しかれなかつた。次男^{つぎお}もそれに氣^きづいたのか、一瞬^{いつしゆん}ミチエの顔^{かほ}とシャツの袖^{そで}口^{くち}を見た。

「ここで待^{まち}ってる」

次男^{つぎお}の両肩^{りょうかた}を押^おさえて言^いった。次男^{つぎお}が泣^なくのをがまんしてしやくりあげている肩^{かた}から、悔^{くや}しさが手^てに伝^{つた}わってきた。悔^{くや}しさ

はすぐ悲しさに変わる。体から力が抜けていった。^⑤歩き出した足元がふらついた。つまりきそうになりながら、顔を上げた。

——ねえちゃんなのに。

そう思うと、篠原先生に何か言わなければという気になる。でも、言ったって、どうなるものでもない。そのあとの次男が心配だ。じくじくとあの冷たい目が、次男をおびえさせるかもしれない。

——ねえちゃんなのに、何もできない。

教室の引き戸の前で止まって、昇降口のほうをふり返った。

次男がぼうーっと立ってミチエを見ている。

「鉛筆と消しゴム」

口に出して言って、教室に入っていった。自分の机の中から、筆箱を取り出した。

「ミチエちゃん、次男ちゃん、どうしたの」

心配そうに和江が聞いてきた。

「次男のやつ、筆箱忘れてきたんだ」

うそはすんなり出てきた。顔も笑顔でがんばっている。でも、続きそうもないがんびりだった。いそいで鉛筆削りのナイフを開いた。小さいけどきれいな白い丸になっている消しゴムをちらっと見て、刃先に力を入れた。

消しゴムの切り口が、ナイフの刃についていた鉛筆の芯の粉で黒くなった。筆箱に悲しげな消しゴムの半分が残った。

「じゃ、行ってくるね。やんなっちゃうよ、次男には」
怒った顔を作って和江をふり返り、あきらめの笑顔を作った。
「うん、ミチエねえちゃんもたいへんだね」

和江の顔は見られなかった。走り出しながら、ねえちゃんという言葉をかみしめた。胸をしめつける言葉だった。

消しゴムと鉛筆を渡すと、次男はだまって「B」うなずいて、走って行ってしまった。うしろ姿を見ていたら始業のチャイムが鳴った。遅れて教室に入っていて、篠原先生に何か言われなければいいと思う。いつも上等なスーツ姿の篠原先生の冷たい目が浮かんだ。

——先生なんて。

みんな同じだと思う。^{注2}大百姓や先生の子やお店の子ばかりひいきする。次男もそんな先生にしかない子たちに、おもしろ半分筆箱を隠されたのだ。家では明るくて調子のいい次男も、学校ではつらい思いをしているのだ。

教室に戻るとき、廊下で担任の石岡先生と鉢合わせしてしまった。いそいでいるミチエを不思議そうに見ている。

引き戸を開けたときに、怒った顔を何でもなかったような顔に変える。心配そうな和江には笑顔を見せた。

(高橋秀雄「朝霧の立つ川」)

注1 なんてII 気力や体力が弱って。

注2 大百姓II 多くの田畑を所有している農家。

(1) 線①「次男の真剣さ」が表れている様子をこれより前の本文中から一文でさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。

(2) 線②「だれかに隠されたとしたら」とありますが、ミチエはどんな子たちが隠したと考えていますか。本文中から十二字で書きぬきなさい。

(3) 線③「次男の担任の篠原先生」について、ミチエはどんな先生だという印象をもっていますか。本文中から十七字でさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。

(4) A・B にあてはまることばとしてもっとも適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア ちらっと イ のんびりと ウ こくんと エ ふらりと オ じっくりと

(5) 線④「次男も手をふりきった」とありますが、このときの次男の気持ちとしてもっとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 姉をこの騒ぎにまきこんでもよいのかというたまどい。 イ 先生に言ってもどうせ相手にされないというあきらめ。
ウ 姉なのに何も力になってくれないのかといういらだち。 エ 自分の姉はこんなにも頼りになるのかというおどろき。

(6) 線⑤「歩き出した足元がふらついた。つまりさうになりながら、顔を上げた」とありますが、このときのミチエの気持ちとしてもっとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分に対する無力感。 イ 学校に対する不信感。 ウ 次男に対する不安感。 エ 先生に対する嫌悪感。
(7) ミチエについて述べたものとしてあてはまるものを次のうちから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 弟思いで、姉としての責任感が強い。 イ やさしくて、決して悪口を言わない。 ウ 陽気で、積極的に行動できる。
エ 思慮深く、周囲の目を気にかける。 オ おとなしくて、人と関わるのが苦手だ。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

注1 鳥はだいたい、ある一つの地方で春から夏にかけて巣を作り、子を育て、さらにべつ①の地方へいって冬越しをする。冬越しをするところで繁殖をいとむことはけっしてない。

北のほうへゆくと冬は寒さが強く、鳥の食物になる木の実や

虫もなくなるため、そこには鳥がすんでいることができなくなる。そこでかれらは南の暖かい、そしてえさの豊富にある地方へ引越しをするのであるといわれている。

注2 温帯地方ではそこに一年中とどまっていることもできる。温

帯よりもっと南のほうの熱帯へいけば一年中そこにとどまっている鳥がいつそう多くなる。それでは熱帯のような年中えさのあるところには渡り鳥がないかというところではない。ただそのようなところでは夏と冬ということではなく、雨季と乾燥期とによって鳥類が「渡り」をおこすのである。しかし、一般的にいえば熱帯地方には渡り鳥はすくないのであって、緯度の高いところ、すなわち寒いほうに渡り鳥は多いということが出来る。

人間にとっても暮しよい温帯はまた鳥にも暮しよいところのように考えられる。そしてそこには一年中とどまっているものも相当にある。その種の鳥を「留鳥」といつている。留鳥にはたくさん種類の種類がある。A カラス、カケス、スズメ、キジ、ヤマドリ、キツツキ、フクロウ、カワガラス、カイツブリ、トビ、ライチョウなどをあげることができる。

種類の近い鳥は、いっぽうが留鳥なら、ほかも留鳥であるとはかならずしもいえない。スズメは留鳥であるが、スズメの親類すじでスズメとよく似ているニュウナイスズメという鳥は、日本より北のほうで繁殖し、初秋のころから日本へやってきて冬越しをする。

留鳥はけっして移動をしないかというところばかりでもない。たとえばスズメは夏のあいだ、人家のえんとつの中や屋根の下に巣をつくって卵を生み、ひなを育てる。繁殖の力がなかなかさかんで、一年に三回もひなを育てる。その時期にはおのちがったところで巣をいとなんでいるが、しだいにひながふえ

て秋になると、人家の多い町や村からはなれたたんぼや畠に集まってくる。そしてその数がひじょうに多くなるとアワの穂やイネなどをさかんに食って害をするので、農家のきらわれ者になるわけである。つまり、このように町からたんぼに移るということも、ごく小さな「渡り」とみられないことはないのである。スズメはひなを育てる夏のころには、おもに虫を食っている。そういうときにはじつはスズメも益鳥なのであるが、秋になると害鳥にかわるのである。

ところでニュウナイスズメは日本より北のほうで繁殖し、夏のおわりになると子供たちをつれて日本へやってくる。そして田や畑に害をする。

スズメは前にいったとおり害もするが、夏は虫をとって益をするのである。そこでかれらのやる害と益とをはかってみると害鳥か、益鳥か判断がつかぬようになる。B いっぽうのニュウナイスズメが日本にいるのは秋から冬のあいだけであるから、このほうは害をするときだけいて、益をするときはいないことになる。そこで日本ではニュウナイスズメは害鳥であるといわねばならない。

このニュウナイスズメのように、日本より北のほうの国で繁殖し、寒いあいだだけ日本へくる鳥を「冬鳥」といつている。冬鳥にぞくする鳥はたくさんある。

日本で「渡り鳥」とふつうにいわれているのはだいたいこの冬鳥のことであって、詩や歌で文学的にあつかわれる渡り鳥も、

冬鳥ふゆどりをさしていることが多いようである。その理由として考え

られるのは、冬鳥は秋になって多数の群むれがいちどに日本へ渡わたつてくるので、ひじょうに人の眼めにつきやすいということである。

ニュウナイスズメもそうであるが、冬鳥としてあげられるのは、カモ、ガン、ツグミ、その他ほか、ヒワ、イスカ、カシラダカ、ノジコ、

イカル、シメなどいわゆる秋の渡り鳥として雑多ざつたの小鳥がこれにぞくし、また大きなものではツルやハクチョウなどがある。

冬鳥とちがって夏のあいだに日本の地で繁殖はんしよくし、冬は日本より暖かい地方へ越こしてゆく鳥がある。これを「夏鳥なつどり」という。

ツバメはその代表的なものである。そのほか夏鳥としてわたしたちに親しみのあるのはホトトギスの類である。ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ジュウイチ、

これらはいずれも鳴き声がきわめてすどく、またかわつてい

るので人の注意をひきやすい鳥であると思う。そのためかれらの名は全部鳴き声からきているのである。日本へは青葉のさわやかな五月ころから、ツツドリ、ジュウイチ、カッコウ、ホト

注1 鳥IIここでは、「渡り鳥」のこと。

注2 温帯II高温の夏と温和な冬があり、四季の変化が明らかでない地域。日本国内は、北海道や沖縄などの一部をのぞき温帯に属する。

注3 熱帯II地球上で緯度が低く、年中温暖な地域。四季の区別がほとんどない。注4 害をするIIここでは、害をおよぼすこと。

注5 益をするIIここでは、役に立つこと。注6 雑多IIいろいろなものがいりまじっていること。

(1) 線①「べつの地方へいって冬越しをする」について、次のI・IIの各問いに答えなさい。

I 「べつの地方へいって」とありますが、ここでは、「渡り鳥」にとってどういう条件のところに行くということですか。次の()にあてはまることばを、本文中から八字で書きぬきなさい。

トギスの順で渡ってくる。そしてこの順はすこしもくるうことがない。ちようどそれは渡り鳥というものがいかに正確に「渡り」をするかということの証拠のようなものである。そのほかに小鳥の夏鳥には、コマドリ、オオルリ、サンコウチョウなどがある。

つぎに繁殖地と冬越しの地とが冬鳥や夏鳥よりもっと遠くはなれている鳥がある。夏鳥は繁殖地が日本で、冬を越すのが外国、冬鳥は冬を越す地、すなわちCが日本でDが外国であるが、繁殖地も越冬地もともに外国で、春秋の二回、繁殖地から越冬地へ、あるいは越冬地から繁殖地へわたるあいだの道すじとして日本に足をとめる鳥がある。これらの鳥は、春と秋にちよつと日本に姿を見せるだけで、しかも一つところにとどまっていない。これらの鳥を「旅鳥」という。チドリやシギの類にそれが多い。たとえばメダイチドリ、キョウジヨシギ、ダイシャクシギ、タシギ、トウネンなどがあげられる。

(内田清之助「渡り鳥」)

暖かくて、() ところ。

II 「冬越しをする」とありますが、「冬越し」をしなくてよい「熱帯」では、「渡り鳥」は何を目安に移動をするのですか。本文中から六字で書きぬきなさい。

(2) 線②「留鳥」について述べたものとしてあてはまらないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「留鳥」の中でも鳥の種類によっては、「渡り」とみられる行動をするものもいる。

イ 「留鳥」とは、一般的には、暖かく暮しやすい地域にとどまり移動しない鳥類のことである。

ウ 「留鳥」である鳥と種類に近い鳥でも、かならずしも「留鳥」であるというわけではない。

エ 「留鳥」は、種類によって「益鳥」であるか「害鳥」であるかが、はっきりと分かれる。

(3) A・Bにあてはまることばとしてもつとも適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だから イ たとえば ウ しかし エ つまり

(4) 線③「その理由」とありますが、どんなことの理由ですか。次の() a・bにあてはまることばを、aは三字、bは二字で、

本文中からそれぞれ書きぬきなさい。

日本でふつういわれ、(a)の中にも登場する「渡り鳥」の多くは、(b)をさしていること。

(5) 線④「夏鳥」について、本文中で述べられている説明と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「夏鳥」とは、夏のあいだに日本より暖かい地方で繁殖し、冬になると日本に越してくる鳥のことである。

イ 「夏鳥」はすべて、鳴き声がかわっているので、人の注意をひきやすく、その鳴き声からそれぞれの鳥の名がつけられた。

ウ ホトトギスの類が日本にやってくる順番はくるうことがなく、そのことが渡り鳥の「渡り」の正確さの証拠ともいえる。

エ コマドリ、オオルリ、サンコウチョウなどが、日本にやってくる「夏鳥」の中でもつとも代表的な種類といわれている。

(6) C・Dにあてはまることばを本文中からそれぞれ三字で書きぬきなさい。

(7) 線⑤「それ」の指す内容を述べた次の() a・bにあてはまることばを、a・bともに二字で、本文中からそれぞれ書きぬきなさい。

なさい。

(a)の二回、越冬地と繁殖地のあいだを往復する道すじとして少したけ日本に足をとめるだけの「(b)」。

(8) この文章全体は何について述べられていますか。もつとも適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「渡り鳥」の繁殖 イ 「渡り鳥」の起源 ウ 「渡り鳥」の分類 エ 「渡り鳥」の能力

(9) 線⑥・⑦の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

3 次の①～③の漢字の部首名をひらがなで、総画数を漢数字でそれぞれ書きなさい。

- ① 祝 ② 建 ③ 街

4 次の①・②の□に漢字一字を入れて、()内の意味の四字熟語を完成させなさい。

- ① 心□一転 (あることをきっかけに、気持ち新たにすること)
 ② 有名無□ (名は知られているのに中身がともなわないこと)

5 次の(1)・(2)の——線部のかたかなを漢字に直して書きなさい。

- (1) ① 八時にハにツく。
 ② 服によフがツく。
 (2) ① 古典のキヨウヨウがある。
 ② 参加をキヨウヨウされる。

6 次の①～③の熟語と同じ組み立てのものを下のア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|----------|----|---|----|---|----|---|----|
| ① 習字 (ア) | 直線 | イ | 国語 | ウ | 教育 | エ | 乗車 |
| ② 少量 (ア) | 未完 | イ | 黒板 | ウ | 挙手 | エ | 国立 |
| ③ 得失 (ア) | 得意 | イ | 失礼 | ウ | 苦楽 | エ | 希望 |

7 文の組み立てについて、次の(1)・(2)の各問いになさい。

(1) 次の①・②の文全体の主語と述語を——線ア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① さつき ア ぼくは イ 公園で ウ 弟の エ 友だちを オ 見かけた。

② とても ア おいしいよ、イ 父さんが ウ ゆうべ エ つくった オ カレーは カ。

(2) 次の①・②の文の~~~~線部が修飾している(くわしく説明している)ことを——線ア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ぼくは ア あんなに イ 二人の ウ 考え方が エ ちがうとは オ 思っても カ いなかった。

② もしも ア 一つだけ イ 願いが ウ かなうなら エ 鳥のように オ 空を カ 飛びたい。

③ ●教室コード番号

⑪

⑮ ●受験者コード番号

⑲

⑳

㉕ ●クラス

●教師検印

●採点者

教室コード番号

1005

F

301

クラス

教師検印

採点者

7

(2)	(1)	(1)
①	①	主語
②	②	述語

72点×4=8点

6

①	②	③
---	---	---

62点×3=6点

5

(2)	(1)	(1)
①	①	く
②	②	く

52点×4=8点

4

①	②	③
心	一転	有名無

42点×2=4点

3

③	②	①
部首名	部首名	部首名
総画数	総画数	総画数

32点×3=6点

2

(9)	(7)	(6)	(4)	(3)	(2)	(1)
あ	a	C	a	A		II
	b		b	B		I
		D				
	(8)		(5)			

2(9) 2点×2=4点

1

(6)	(4)	(2)	(1)
	A		
	B	(3)	
	(5)		
	(7)		

2(1)~(8) 4点×9=36点

14点×7=28点

7 (1) 各空答

3 各空答

2 (3) (4) (6) (7) 各空答

1 (4) 空答 (7) 空答 順不同可

解答	配点
1 (1) 次男がミチ (2) 先生にしかられない子たち (3) 氣どつた冷 (4) A ア B ウ (5) イ (6) ア (7) ア・エ	1 各4点×7＝28点
2 (1) I えさの豊富にある II 雨期と乾燥期 (2) エ (3) A イ B ウ (4) a 詩や歌 b 冬鳥 (5) ウ (6) C 越冬地 D 繁殖地 (7) a 春秋 b 旅鳥 (8) ウ (9) ㊸ す ㊹ そうとう	2 小計40点 (9) 各2点×2＝4点 他各4点×9＝36点
3 (部首名・総画数の順に) ① しめすへん・九(画) ② えんによう・九(画) ③ ゆきがまえ・十二(画)	3 各2点×3＝6点
4 ① (心)機(一転) ② (有名無)実	4 各2点×2＝4点
5 (1) ① 着(く) ② 付(く) (2) ① 教養 ② 強要	5 各2点×4＝8点
6 ① エ ② イ ③ ウ	6 各2点×3＝6点
7 (1) (主語・述語の順に) ① イ・カ ② カ・イ (2) ① エ ② ウ	7 各2点×4＝8点

採点基準 1 (4)、2 (3)・(4)・(6)・(7)、3 ①③、7 (1)①・② 各完答。
1 (7) 完答。順不同可。 3 ③ 部首名は「ぎょうがまえ」でも可。

【解説】

- 1 問題文は、高橋秀雄『朝霧の立つ川』による。
- (1) ミチエを「じっと見すえ」たり、「勢いよく」首をふってミチエのことをばを否定している様子などから、次男の真剣な思いがわかる。
 - (2) ミチエは、先生に「ひいき」されている子たちのせいで、次男が「つらい思い」をしていることを知っている。
 - (3) 少しあとに、村の人たちがもっている好印象とは対照的な、ミチエの篠原先生に対する印象が書かれている。
 - (5) 「もう一回」篠原先生に筆箱のことを言いに行こうとしたものの、「すぐ氣持ちがなえてしまった」ミチエと、次男も同じ氣持ちであることをとらえる。
 - (6) 直前の「体から力が抜けていった」や、「ねえちゃんなのに、何もできない」などのことばからとらえる。
 - (7) ミチエの、弟のことを常に気にかけている姉らしい面や、涙目の次男に、「ここで泣かれたら」と、人目を気にしてあれこれと思案をめぐらせてしまう一面などが読み取れる。
- 2 問題文は、内田清之助『渡り鳥』による。
- (1) I 渡り鳥が移動(「渡り」)をする根本的な理由を読み取る。II 第三段落で、熱帯では「夏と冬という」ことでなく、雨期と乾燥期とによって鳥類が『渡り』をおこすと説明している。
 - (2) 「留鳥」であるスズメは、秋になるとアワやイネを「食って暮をする」が、夏のころは「おもに虫を食っている」ことから、「益鳥なのであるが、秋になると害鳥にかわる」と説明されている。エはこの説明に合わない。
 - (4) 「冬鳥」は、「秋になって多数の群がいちどに日本へ渡ってくるので、ひじょうに人の眼につきやすい」ため、日本では「渡り鳥」のイメージとして定着していると考えられる。
 - (5) アは、本文で説明されている「夏鳥」の説明と逆の内容。イ「夏鳥」はすべて、鳴き声がかわっているわけではない。エ 筆者は、「夏鳥」の代表的なものは「ツバメ」だと述べている。
 - (7) 直前に着目し、「旅鳥」についての説明を読み取る。
 - (8) 「留鳥」「冬鳥」「夏鳥」「旅鳥」といった「渡り鳥」の種類について、それぞれ説明されている。
- 3 漢字の部首と総画数の問題。 4 四字熟語の問題。 5 同訓異字・同音異義語の問題。
6 二字熟語の組み立ての問題。 7 文の組み立ての問題。